

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2016年9月号>

114号 2016.09.01 配信

このたびの台風で、被害に遇われました皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

9月10日(土)は『ワーキングネットワーク秋祭り』です。第1部は講演会、第2部は各ネットワークに分かれて情報交換、意見交換、第3部は合同で懇親会を行います。

皆様、お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2016年9月10日(土) 13:00~16:30

会場：昭和女子大学 学園本部館3階 大会議室

<第一部講演会> 13:00 ~14:00

講演：「心のコントロール ~ 腹が立った時どうしたらいい? ~」

講師：昭和女子大学 人間社会学部心理学科教授 山崎 洋史氏

<第二部 ネットワークトーク> 14:00 ~15:00 関心のある分科会にご参加を!

各ネットワークに分かれて情報交換、意見交換

<第三部 合同で懇親会> 15:00 ~16:30 *懇親会参加費 1,000円

【申し込み】 e-mail: working@swu.ac.jp または、FAX: 03-3411-4066

【申込み締切り】 9月5日(月)

2016年度秋期 社会人メンター募集のお知らせ

募集期間：2016年9月1日(木) ~ 9月20日(火)

応募要件：原則3年以上の社会人経験のある女性

応募方法：募集期間中、大学ホームページ (<http://univ.swu.ac.jp/>) の、「お知らせ／公開講座・イベント」欄にて、募集要項ならびに応募フォームをご案内いたします。

選考方法：書類審査のうえ、面談させていただきます。

*社会人メンターネットワークについては、下記ホームページをご参照ください。

<http://dream.swu.ac.jp/recruitment>

ひとこと

—この夏に感じたこと—

今回の担当は、中学校高等学校教職員ネットワークです。

今年は夏休み終盤に何度も台風に見舞われました。そのような中で、高校野球大会が開催されました。自分の母校が参加していたこともあり、例年より幾分か熱心にTV応援をしていました。TVを見ていると、気づいたことがあります。

ドラフトで指名がかかりそうな優秀な選手を抱えているチームよりも、名の通った選手が居なくとも、チームワークの良さや監督の絶妙な采配により勝ち進んでいくことが多いのです。

社会に出て数十年経過したにも関わらず、未だ自分自身に不足している部分を高校生たちに教えて貰った夏でした。(S・N)

■広げよう光の葉

夏目 暢子さん (旧姓 今村)

1963年短期大学部 被服科卒

「私の生き甲斐」

光葉同窓会から「私の職場」というテーマで原稿の要望を頂いたが、私は企業に勤務した経験はないので、私の仕事という意味で「私の生き甲斐」について書かせて頂く。

私が例年お盆になるとお参りするお墓の一つに、丸い墓石に『宙』の一文字を刻んだお墓がある。この墓石は、亡くなった私の書のお友達のご主人から、墓石に『宙』を書いて欲しいという希望があって書かせて頂いた。この墓石は、彼女そのままに、おおらかでまろやかな姿でおむすびのように鎮座している。そしてこの一年ご無沙汰だった彼女と、夏の陽射しの下で語り合うのだ。

私のアトリエは自宅から車で10分程度のところ、広島市内東北部の小高い山の上のマンションの最上階にあるので、好天の時には広島港、広島湾その向こうは宮島も見えて、眺めが良い。その部屋には、筆・墨・硯・山積みの紙・書籍・好きな作家の絵画・立体作品・彫刻・陶器などがあり、このような大切な物に囲まれて過ごすのが、殆どの日課である。

書道は、小学校の頃から書道教室に通い、長い間筆墨に親しんできた。私はいろんな習い事もしたが、中でも書道だけは一生懸命続けた。私が書道を生き甲斐にするようになったきっかけは、大阪にアトリエがあった榊莫山先生との出会いである。先生の指導には特別お手本というものはなく、自由に描いた作品を持っていくと、何時も「ええな、ええな」だけで、25年も通っていた。その間何時からか子供や大人たちもアトリエに来るようになり、私塾のようになっていた。榊莫山先生は大きな団体の展覧会に出すことは好まれないので、皆には個展をするように勧めて下さった。

個展は、広島市内の福屋デパートの美術画廊で4回、ギャラリートミタ、東京銀座、尾道、金沢等で14回。その間現代美術展に出品したり、ドイツや韓国との交流展も楽しんだ。

平成23年広島の安田女子大学文学部書道学科に誘われて非常勤講師として勤務することになった。安田女子大学には日本中の中高書道教科書を編纂された井上桂園先生がおられたこともあって、教育書道で著名な存在である。私は墨象を主に作家活動をしているので、学生には創作指導として自由に教えて下さいとのことであった。私は学生に課題を与えて、その人らしさを出した作品になるように指導することに努めている。学生は臨書を沢山していて、基礎はしっかり勉強しているので、思うように書きなさいというと、皆いきいきと楽しく書いているので嬉しい。

アトリエに来る人達もテーマを決めて自由に楽しく書いて作品展をする。隔年にギャラリーで「アトリエ夏目・仲間たち展」の展示をして、今年が15回目になった。

こういう訳でアトリエでも安田女子大学でも、好きなことをして楽しく過ごしている。一番嬉しいのは、老若男女の沢山のお友達との語らいである。書の他にも絵画や俳句のお友達が多い。このような時間を続けることができるのはありがたい。

End